

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	新治村立新治中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	22
生徒数	88	94	97	3	282	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の学習意欲を高め、基礎・基本を身に付けさせ、「確かな学力」の定着を図る学習指導法の研究
 ～ 習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチングを通して ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・社会
1年生段階で、社会科に関する生徒の興味・関心を高めたり、課題解決学習の基礎を養うため。
- ・ 1年生・理科
1年生段階で、理科に関する生徒の興味・関心を高めたり、基礎的基本的な実験、観察の技能を取得させるための、きめ細かな支援を実現するため。
- ・ 2年生・数学
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 2年生・国語
学校として、当該学年の教材開発に実績があるため。
- ・ 3年生・英語
生徒の理解の状況や興味・関心に差が出る学年であり、個人差に対応した支援を実現するため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人の学習意欲を高め、基礎・基本を身に付けさせ、「確かな学力」の定着を図る学習指導法の研究 ～ 習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチングを通して ～</p> <p>仮説 学習指導法を工夫し個に応じたきめ細かな指導を行えば、一人一人の学習意欲が高まり基礎・基本が身に付き、「確かな学力」の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1)理論研究 「基礎・基本」の明確化 本校における各教科の「基礎・基本」の基本的な考え方として、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容を「基礎・基本」とする。 「確かな学力」の明確化 ア 知識・理解・技能(測ることのできる学力) イ 思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力(測ることが難しい学力) ウ 関心・意欲(測ることができない学力) この3つの学力を総括したものを「確かな学力」とした。</p> <p>(2)調査研究 知識や技能を主とした学力の把握 1、2年・・・7月、1月の実力テストの実施</p>
--------	--

3年・・・7月、12月の実力テストの実施
 実施教科：国語 社会 数学 理科 英語の5教科

情意面（学習意欲）の把握

生徒向けアンケート（意識調査）の実施

ア 家庭学習実施時間の調査（7月、12月）

イ 学習に対する意識調査

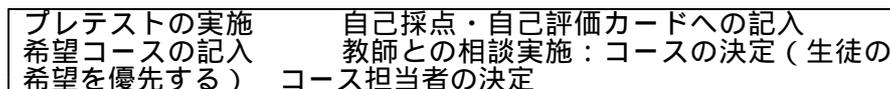
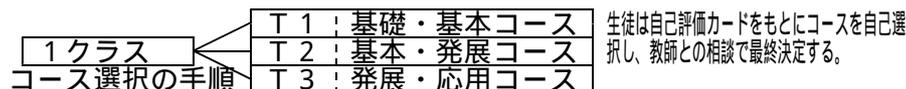
ウ 習熟度別学習、少人数学習、チーム・ティーチングによる学習の意識調査

(3) 学習指導研究（実践研究）

学習形態の工夫（習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチング）

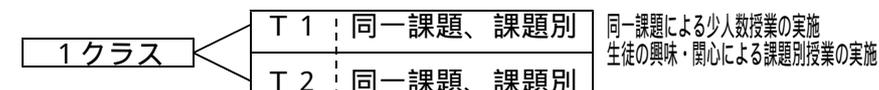
【習熟度別指導の実施】

数学（1クラスを3コースに分け、3人の教師で指導）



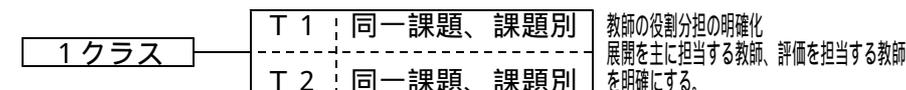
【少人数指導の実施】

国語（1クラスを2集団に分け、2人の教師で指導）



【チーム・ティーチングによる指導の実施】

社会、理科、英語（1クラスを2人の教師で指導）



選択教科における補充としての「基礎・基本定着の時間」の設置

ア 実施時間：1年30時間、2年50時間、3年70時間実施

イ 各教科4～5つのコースを設定し、生徒の意志によるコース選択をする。生徒が自分に不足している力やもっと伸ばしたい力を意識して、コースを選択し学習する。

ウ 指導者：教科担当者、学年の教師が指導

学習相談の実施（全学年、中間・期末テスト前、夏休み10日間）

ア 中間・期末テスト前の学習相談

・実施日数及び時間：3日間、放課後1時間実施

・指導者：学年の教師、教科担当者が中心となり指導

イ 夏休みの学習相談

・実施日数及び時間：10日間 1日あたり2時間～3時間実施

・指導者：学年の教師、教科担当者が中心となり指導

家庭学習の充実（スタディタイムの設置）

ア 名称：新治中スタディタイム

イ 内容：毎日2時間の家庭学習の実施

ウ 家庭学習計画表を作成させ学級担任が検閲する。

エ 保護者の協力（子どもが学習できる環境作り）を得る。

平成15年度

テーマ
一人一人の学習意欲を高め、基礎・基本を身に付けさせ、「確かな学力」の定着を図る学習指導法の研究
～ 習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチングを通して ～

仮説
学習指導法を工夫し個に応じたきめ細かな指導を行えば、一人一人の学習意欲が高まり基礎・基本が身に付き、「確かな学力」の定着を図ることができるであろう。

研究の内容・方法

(1) 理論研究

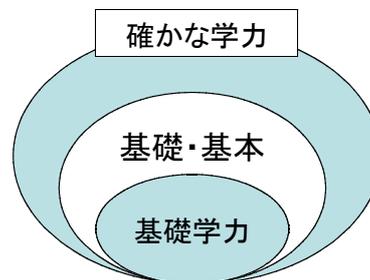
目指す生徒像

- ・学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学習する生徒
- ・確かな学力を身につけ、主体的に課題解決ができる生徒

研究の構想



確かな学力のとらえ方



- ・基礎学力
すべての学習を成立させる上で必須の基礎的な知識・理解や各教科における独自の基礎的な知識・技能

- ・基礎・基本
学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容
関心・意欲・態度・思考力・判断力・技能・表現力・コミュニケーション能力・知識・理解など

- ・確かな学力
基礎学力や基礎・基本を基に、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

(2) 学習指導研究(実践研究)

学習形態の工夫(習熟度別指導、少人数指導、TT)

- ア 習熟度別指導の実施(1クラスを3コースに分け、3人の教師で指導)
 - ・2年数学、3年選択英語で実施
- イ 少人数指導の実施(1クラスを2集団に分け、2人の教師で指導)
 - ・2年国語で実施
- ウ TTによる指導の実施(1クラスを2人の教師で指導)
 - ・1年社会、理科を中心に実施
 - ・各学年5教科でTTを可能な限り取り入れる。

評価の改善と工夫

- ア 評価の観点を明確にした自己評価や相互評価の工夫
- イ 習熟度別指導・少人数指導・TTにおける評価の共通理解
 - ・同一規準で評価を行う。
 - ・生徒一人一人の努力を認め励ます個人内評価を行う。
 - ・役割分担によるきめ細かな評価の実施。
- ウ 評価を今後の指導に生かす工夫
 - ・B評価に達しない生徒への支援を明確にする。

各教科の研究内容

【国語科】

2年生3クラスで実施。各クラス2名の教師によるチーム・ティーチングが常時できる時間割編成にし、年間指導計画にチーム・ティーチングで学習する単元を位置づけ、その単元でチーム・ティーチングによる少人数指導を実施する。

1学期 知ってるつもり

2学期 表現を味わう

考えを深める

—— 新治中はこんな学校 ——

—— 「走れメロス」 ——

—— デイベカッション・意見文 ——

1クラス	T 1	同一課題	課題別
	T 2	同一課題	課題別

- ・同一課題による少人数授業の実施
- ・生徒の興味・関心による課題別少人数学習の実施

【社会科】

第1学年は、週3時間中2時間を2人の教師によるチーム・ティーチングができるように時間割編成する。年間指導計画の中にチーム・ティーチングができる単元を位置づけ、歴史と地理の並列型学習方式を生かし

て、その単元を連続的にチーム・ティーチングで実施できるようにする。

ア 「つかむ」の段階でのTT指導

- ・1クラスを2人の教師が役割分担をして指導する。

T 1	同一課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の授業展開 ・学級全体の達成度の評価 ・発展的な学習へのアドバイス ・B評価に達していない生徒への援助
T 2	同一課題	<ul style="list-style-type: none"> ・経過的评价 ・発展的な学習へのアドバイス ・B評価に達していない生徒への援助 ・個別学習カウンセリング

イ 「追求・まとめ」の段階でのTT指導

- ・同一課題の場合は、「つかむ」学習と同じ役割で指導する。
- ・課題別の場合は、生徒の興味関心ごとにグループ作りをして、少人数指導を行う。

T 1	同一課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の授業展開 ・学級全体の達成度の評価 ・発展的な指導へのアドバイス ・経過的评价 ・B評価に達していない生徒への援助 ・個別学習カウンセリング
T 2	課題別	

【数学科】

第2学年において、1クラスを3人の教師で指導する時間を週1/3時間設け、3人でのTTや3コースに分けての習熟度別指導(主に小単元末)を実施する。

ア 同一課題の場合の習熟度別指導について

1クラス	T 1	基本コース
	T 2	基本・発展コース
	T 3	発展・応用コース

<各コースの内容>

- ・基本コース：基本的な内容
- ・基本・発展コース：基本的な内容+発展的な内容
- ・発展・応用コース：発展的な内容+応用問題

イ 課題選択学習の場合の習熟度別指導について

1クラス	T 1	課題1コース(基本的な内容)
	T 2	課題2コース
	T 3	課題3コース

<各コースの内容(実施例：連立方程式の応用)>

- ・課題1コース：代金と個数の問題
- ・課題2コース：速さに関する問題
- ・課題3コース：割合に関する問題

ウ コース決定までの手順

プレテストの実施 自己採点・自己評価カードへの記入 希望コースアンケートの実施 教師との相談実施 コースの決定(生徒の希望を優先) コース担当者の決定

【理科】

第1学年の週3時間をすべてTTで行う。TTを行う場合の主な場面と役割は次の通りとする。

ア 課題把握の場面

- T 1 ・演示実験等による課題提示と意欲の喚起(場合によってT 2と伴に)
- T 2 ・課題把握が不十分な生徒へ具体物等を用いて援助指導

イ 実験、観察、調べ学習等の場面

- T 1 ・実験、観察のアドバイス及び意欲づけの言葉かけ
- ・生徒からの多方面にわたるニーズに対応
- ・進度の速いグループへ発展的な内容の提示
- ・評価(技能・表現)
- T 2 ・進度の遅れているグループへ援助指導(他は、T 1と同様)

ウ まとめ、発表会等の場面

- T 1 ・生徒一人一人の疑問やつぶやきに対応
- ・学習内容の補足説明
- ・評価(主に知識・理解や科学的な思考)

- T 2 ・発表会における質問及び重要事項の確認
- ・理解が不十分な生徒への援助指導
- ・評価（主に関心・意欲・態度や技能・表現）

【英語科】

平成 14 年度は、1 クラスに 2 人の教師が入っての T T を実施したが、生徒の関心・意欲や理解の個人差に対応するため、今年度は、習熟度別指導を実施することとした。また、必修教科の中での実施より、新たな教材を開発して、実施した方が効果的であると判断し、選択教科の中で英語のコース選択学習として実施することとした。

生徒の習熟度と英語学習への興味関心に応じて 3 つのコースを設け、習熟度別少人数グループに分けて指導することにより、普段の英語学習を補完し、補充深化・発展させる効果をねらう。

ア 各コースの内容

< 英語基礎強化コース >

- ・フォニックスを利用して英語の文字と音の関連を系統的段階的に指導し、英文を自信を持って音読できるようにする。
- ・英文法の基礎基本を丁寧に指導し、簡単なコミュニケーション活動が自信を持って行えるようにする。

< 英語充実コース >

- ・教科書の新出の表現や語彙を復習し、英語の運用能力を高める。
- ・教科書の「Plus」の活動にさらに時間を割き、「聞く話す」を中心としたコミュニケーション能力の充実を図る。

< 英語発展コース >

- ・生徒にとって興味深い題材の長文を読み、英文を逐語和訳せずに直読する力を着ける。
- ・長文の内容確認をなるべく英問英答で行い、総合的で発展的な「聞く話す」力を着ける。

イ コース決定までの手順

年度はじめにガイダンスをもち、各コースの特徴・学習内容を説明し、アンケートを取って決定する。生徒の希望は優先させるが、状況によっては、適切なコース選択ができるように教育相談を行っている。

選択教科における補充としての「基礎・基本定着の時間」の設置

今年度は、14 年度の反省を踏まえ、学年主導型から教科担当主導型に変えて実施した。また、実施時間についても、2 年生 50 時間から 35 時間へ 3 年生 70 時間から 35 時間へ絞り、1 時間ごとの内容を充実させることとした。

< 各学年の内容 >

1 年生：5 教科の中から 1 教科を学期ごとに選択して基礎的な内容を学習。

2 年生：国語・数学・英語の 3 教科に絞り、年間時数を 3 等分して、基礎的内容を厳選したり、学習内容を個別化したりして実施。

3 年生：習熟度別の問題集を使用して、計画表をもとに生徒自らの計画で学習を進める形で実施。

学習相談の実施（中間・期末テスト前・長期休業中）

ア 中間・期末テスト前の学習相談

- ・実施日数及び時間：3 日間、放課後 1 時間実施
- ・指導者：学年の教師、教科担当者が中心となり指導

イ 夏休みの学習相談

- ・実施日数及び時間：約 10 日間 1 日あたり 1 時間～3 時間実施
- ・指導者：学年の教師、教科担当者が中心となり指導（1 人 3 時間担当）

・実施方法：事前に生徒の希望をとり 20 人以下のクラスで実施。

家庭学習の充実（スタディタイムのさらなる充実）

- ・名称：新治中スタディタイム
- ・内容：毎日 2 時間以上の家庭学習を目標とする。
- ・各テストの 1 ヶ月前より、家庭学習計画表を作成し、学級担任が点検や励ましを行う。
- ・保護者の協力（子どもが学習できる環境作り）を得る。（文書、学校・学年便りによる啓発）

校内環境の工夫

ア 学習コーナーの設置

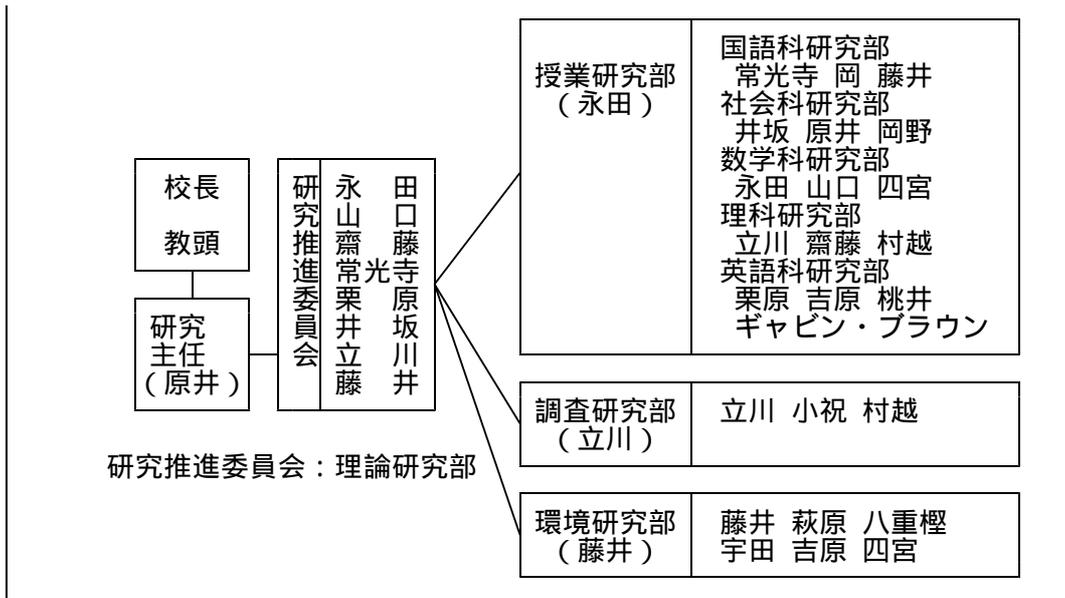
- ・学習意欲を喚起させる環境
- ・学びの足跡が見られる環境
- ・学習を振り返ることのできる環境

	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の進歩の状況がわかる環境 イ その他の環境 基礎・基本の定着を図るチャレンジテスト ア 漢字能力検定テストの奨励 イ 実用数学技能検定テストの奨励 ウ 実用英語技能検定テストの奨励
--	--

平成16年度	<p>テーマ 一人一人の学習意欲を高め、基礎・基本を身に付けさせ、「確かな学力」の定着を図る学習指導法の研究 ～ 習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチングを通して ～</p> <p>仮説 学習指導法を工夫し個に応じたきめ細かな指導を行えば、一人一人の学習意欲が高まり基礎・基本が身に付き、「確かな学力」の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)理論の継続的な研究 「確かな学力」について 「基礎・基本」について 習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチングについて 評価の在り方について</p> <p>(2)学習指導の継続的な研究（実践研究） 各教科における学習指導方法の工夫と改善 補充的な学習及び発展的な学習の教材開発 「確かな学力」を育むための評価の在り方の研究 現行の観点別学習状況の評価（絶対評価）と個人内評価の工夫改善 教育課程上の工夫改善</p> <p>ア 選択教科における補充としての「基礎・基本定着の時間」の設置 ・実施時間：1年30時間、2年35時間、3年35時間実施 ・選択教科の主旨をふまえた効果的な実施方法の再検討</p> <p>イ 基礎・基本の定着のための朝自習の充実</p> <p>ウ 時間割編成上の工夫</p> <p>学習相談の実施（全学年実施）</p> <p>ア 教育相談 ・学期1回実施</p> <p>イ 中間・期末テスト前の学習相談 ・実施日数及び時間：3日間、放課後1時間実施 ・指導者：学年の教師、教科担当者が中心となり指導</p> <p>ウ 夏休み期間中の学習相談</p> <p>家庭学習の充実（新治中スタディタイムの徹底）</p> <p>ア 生徒への効果的な働きかけの工夫</p> <p>イ 毎日2時間の家庭学習の実施</p> <p>ウ 家庭学習の仕方の指導</p> <p>校内環境の工夫</p> <p>ア 学習コーナーの設置 ・学習意欲を喚起させる環境 ・学びの足跡が見られる環境 ・学習を振り返ることができる環境 ・一人一人の進歩の状況がわかる環境</p> <p>イ その他の環境</p> <p>基礎・基本の定着を図るチャレンジテスト</p> <p>ア 漢字能力検定テストの奨励</p> <p>イ 実用数学技能検定テストの奨励</p> <p>ウ 実用英語技能検定テストの奨励</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

今年度は、新たに「環境研究部」を設け、校内の学習環境のさらなる充実を図ると共に、環境に関して、学年や学級間の共通理解を図ることに努めた。また、研究推進委員会を強化することで、各研究部間の連携を図り、全職員でフロンティア事業に取り組めるようにした。



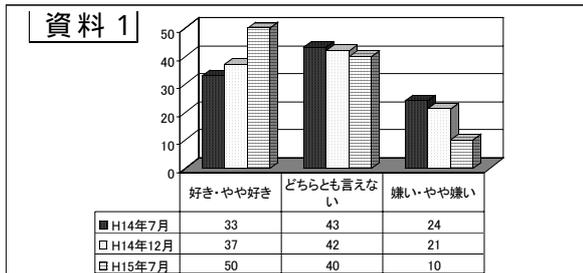
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 生徒向けアンケート（意識調査）の結果から

（全学年 H14 年 283 名、H15 年 282 名実施）

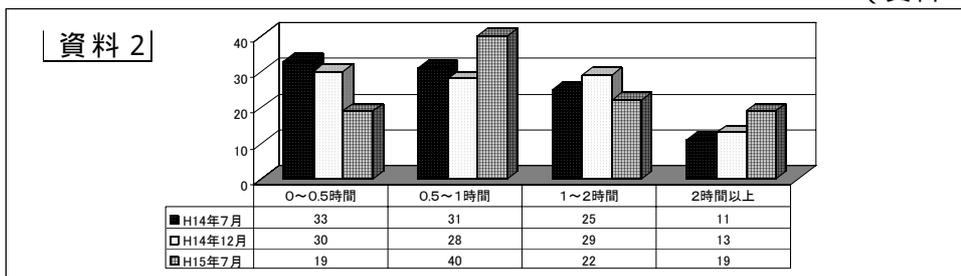
「勉強は好きですか」の問いに対する回答（資料1）



「教科の勉強は好きですか」の問いに対する回答のうち、「好き」・「やや好き」の合計が14年7月33%から12月37%に、15年7月50%に上昇した。「嫌い」・「やや嫌い」は14年7月24%から12月20%に、15年7月11%に下降した。徐々に学習意欲が出てきている結果となった。

「家庭学習の時間はどれくらいですか」の問いに対する回答の変化

（資料2）

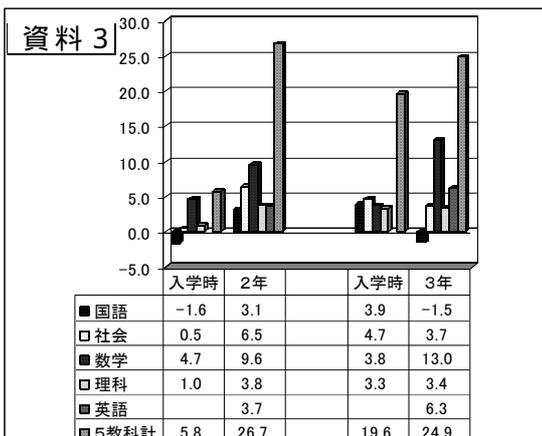


生徒の H14 年 7 月の家庭学習実施時間から H14 年 12 月をへて H15 年 7 月の家庭学習実施時間の方が時間の増加が見られた。これは新治中スタディタイム（家庭学習の充実のための取組）の効果が、少しずつ現れているのではないかと考えられる。

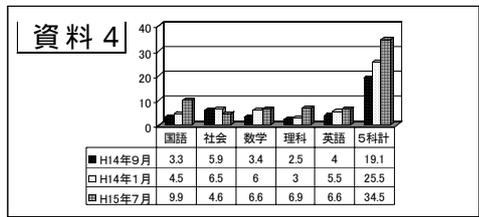
(2) 学力テストの分析から

県「学力診断のためのテスト」の結果（資料3）

入学時（H13 年 4 月・H14 年 4 月）と H15 年 4 月の比較をした結果、平均正答率の比較で、本年度（H15）第 2 学年では入学時に比べ、県平均より 5 教科合計で + 20.9 ポイント高く、第 3 学年では入学時に比べ + 5.3 ポイント高くなっている。（どちらも、第 1 学年が 4 教科受験のために 5/4 倍した値で比較している。）



校内実力テストの結果
(ベネッセ標準実力テスト)
H14年7・9月、H14年12・1月、H15年7月実施
【本年度第3学年の昨年からの推移(平均との差)】(資料4)



資料4は、県平均と本校の平均を比較することによって学力の向上を見ている。この結果からも、着実な向上が見られる結果となった。

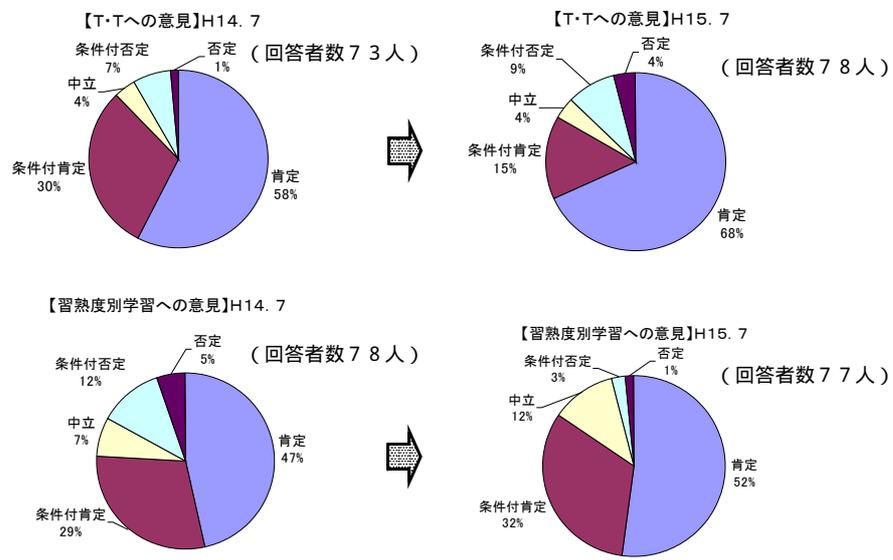
(3) 生徒の学習後の感想から
少人数学習・習熟度別学習による授業での生徒の感想

<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力に合っていてやりやすい。 ・わかりやすく質問しやすい。 ・詳しく分かるまで教えてもらえる。 ・自分のペースで学習できる。 ・個別に教えてもらえる。 	<p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友人と一緒に学習ができない。 ・周りが気になってしまう。
---	---

TTによる授業での生徒の感想

<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問しやすい。 ・よく教えてもらえる。 	<p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人の先生がいるので緊張する。
--	---

(4) 保護者アンケートから



T・Tへの意見については、H14年度肯定58%からH15年度68%に上昇し、習熟度別学習については、H14年度肯定47%からH15年度52%に上昇した。これまでの実践を通して、保護者の理解が進んでいる結果となった。

- T・Tへの意見
- ・一人一人の生徒に先生の目が届き学力向上につながると思う。
 - ・特に、理解できない生徒に指導をお願いしたい。
 - ・学習内容によって必要であるとおもう。
 - ・授業が盛り上がるが、学習効果については分からない。

- ・技能教科の方がＴＴを必要としていると思う。
- 習熟度別学習への意見
 - ・理解度の違いに応えられるので良い。
 - ・生徒がコースを選ぶなら良い。
 - ・本人がどれくらい自己理解して正しくコースが選べるのか心配。
 - ・先生は指導しやすくなるかもしれないが、生徒の中で差別が生まれると思う。
 - ・わかりやすい面もあるがレベルで分けられるなら考えさせられる所もある。

2. 今後の課題

- (1) 「確かな学力」の定着のためのより効果的な習熟度別少人数指導、ＴＴの授業の在り方の研究。
- (2) 年間指導計画の中への習熟度別少人数指導、ＴＴの授業の位置をさらに進めること。
- (3) 習熟度別指導、少人数指導、ＴＴを導入したことによる生徒の学力の変容の把握。次学年へ継続的な指導を試み、２年間での変容を見ていく。
- (4) 発展的な学習や深化・補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発をさらに進める。
- (5) 生徒の学習意欲を高め、指導と一体になった評価を実践する。

学力把握のための学校としての取組

- 調査研究部が主体となり計画をし、学力把握のためなどに以下のようなテストやアンケートを行っている。
- (1) 知識や技能を主とした学力の把握
 - ・ 1、2 学年・9 月、1 月の実力テストの実施（ベネッセ標準学力テスト）
 - ・ 3 学年・・・7 月、1 2 月の実力テストの実施（ " " ）
 - ・ 実施教科・・・国語 社会 数学 理科 英語の 5 教科
 - ・ 分析方法
 - 全国平均と本校（1、2 年）の平均、茨城県平均と本校（3 年）の平均を比較することによって学力の向上を見る。
 - (2) 情意面（学習意欲）の把握
 - ・ 生徒向けアンケート（意識調査）の実施（7 月、1 2 月）
 - 家庭学習実施時間の調査、学習に対する意識調査、習熟度別学習、少人数学習、チーム・ティーチングによる学習の意識調査など
 - (3) フロントティア事業に関する外部評価（7 月、1 2 月）
 - ・ 保護者向けアンケートの実施
 - 子どもの学習に対する意識調査、習熟度別学習、少人数学習、チーム・ティーチングによる学習に対する意見など

フロントィアスクールとしての研究成果の普及

- 平成 15 年度活動実績
- ・平成 15 年度フロントィアティーチャーとして英語の教材開発にあたる。（平成 16 年度は、フロントィアティーチャーとして理科の教材開発に重点をおく予定。）
 - ・平成 15 年 7 月 8 日 山形県南陽市沖郷中学校来校
 - ・平成 15 年 1 0 月 3 0 日 小平市教育委員会視察団来校
 - ・平成 15 年 1 0 月 3 1 日 学力向上フロントィア事業研究発表会開催
新任員研修としての授業参観協力校となる
- 平成 16 年度研究発表会について
- (1) 日時 平成 16 年 1 1 月 1 9 日（金）（詳しい日程は未定）
 - (2) 会場 本校 体育館及び各教室
 - (3) 対象 茨城県県南各中学校、県内フロントィアスクール
 - (4) 内容 公開授業及び 5 教科の分科会を予定
- ホームページでの公開
新治中学校ホームページ <http://www.hidecnet.ne.jp/~nihari/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】 3 学級以下 4 ~ 6 学級
 7 ~ 9 学級 1 0 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 5 学級 1 6 学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T . T による指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無